

簡易検査キット配布事業の実施状況

令和3年6月から実施してきた抗原定性検査（簡易検査キット）を活用した感染対策事業について、市民への一般配布を令和5年1月をもって終了としたため、専門家会議委員からの評価を踏まえ、事業効果・課題等の考察を行った。

背景

圏域内に新型コロナウイルスが存在せず、ウイルスフリーな状態であれば社会活動、経済活動は滞ることなく回すことができる。「感染対策の原点である水際対策を自発的に行うムーブメント」を起こすことが当事業の出発点であった。新型コロナウイルスはインフルエンザとは違い、発症前にウイルス量が多くなり、無症状の状態での他人に感染させてしまうことが判明しており、海外各国では潜伏期のウイルスキャリアーの早期検出のための頻回な検査と隔離による感染防止対策が行われていた。

当時の日本では「個人に検査を任せられない」との立場であったが、イギリスやアメリカで行っている方式を参考とし、専門家会議委員のご意見を聴きながら、PCR検査や抗原定量検査に比べ、安価で行える抗原定性検査（簡易検査キット）を活用し、個人が検査を行うことにより陽性者の早期発見・早期隔離を行い、感染拡大を最小限に抑えることができないかと考えた。

この考えのもと、個人による頻回な「自発的自己検査」から「自発的自己隔離」へ繋がる意識づけを地域社会に根付かせることを目的とし、令和3年6月21日から簡易検査キットを無料配布することとした。配布する対象者は感染拡大地域を始めとする他地域との往来があった方や身の回りに陽性となった方がおり不安を感じている方等、何らかの感染リスク、エピソードがある方に絞り、また配布の際の感染リスクを下げるためネットからの申し込みと自宅への送付による配布を基本とすることとした。また他圏域へ定期的に出張する業務のある方が1週間に1度検査できるよう、1回に1人で4個まで申し込みができることとし、より多くの市民に配布できるよう、申し込みは1人1か月に1回とした。

なお、社会実験と位置づけた本事業の第1弾では、飯田医師会による監修をいただくなど医療機関等の絶大な協力をいただいた。また、当圏域は医療機関による新型コロナウイルスの検査実施率が非常に高いことや、地域外来・検査センターをいち早く運用したことを含め、感染拡大防止に対する医療機関の協力・連携があつてこそ実施できた事業であった。

配布概要

◇ 総配布数

配布期間	種別	合計件数・配布数	個人	団体
第1弾 R3.6.21～R3.7.16	件数	1,140件	1,052件	88件
	個数	4,923個	3,557個	1,366個
第2弾 R3.8.4～R4.3.23	件数	28,422件	27,194件	1,228件
	個数	149,726個	91,442個	57,284個
第3弾 R4.3.30～R5.1.9	件数	100,387件	98,928件	1,459件
	個数	450,358個	389,568個	60,790個
第1弾～第3弾 合計	件数合計	129,949件	127,174件	2,775件
	個数合計	605,007個	484,567個	119,440個

◇ 参考（その他配布、提供数）

配布期間	福祉施設	保育園	病 院	町村等
令和3年度	15,640 個	4,137 個	425 個	21,156 個
令和4年度	22,837 個	7,655 個	800 個	41,021 個
合 計	38,477 個	11,792 個	1,225 個	62,177 個

※1 福祉施設・保育園・病院 … 保健所より検査キットによる定期検査を指示された施設に配布

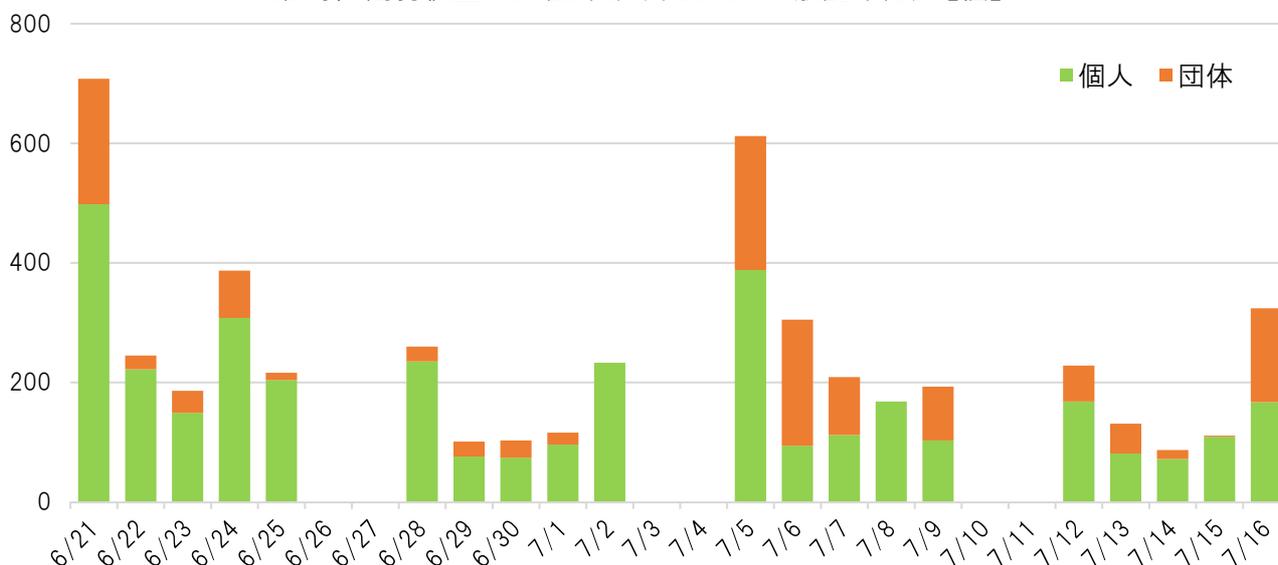
※2 町村等 … 町村等による実費負担にて配布

◇ 第1弾（令和3年6月21日～7月16日）

第1弾では簡易検査キットの精度等を考慮し、「医療用」検査キットを配布した。社会実験と位置づけ、感染拡大抑止に有効かだけではなく、個人でも検体採取や検査できるか、安心感につながるか、再び検査をしたいか、自費で購入する場合はいくら程度まで出せるか等を、アンケートに回答いただくことで検査の実効性や生活に与える影響等を検証することとした。

広く利用を促進するため、市内企業に対しキット利用の案内文を送付した。

第1弾 簡易検査キット配布数(市民向け一般配布分)【個】



◇ 第2弾（令和3年8月4日～令和4年3月23日）

第1弾のアンケート集計から、検体採取、検査自体は個人でも問題なく行えることが判明した。使用の申請理由も「感染拡大地域との往来」「冠婚葬祭で親戚等が集まる」が大半を占めており、使用場面はこちらの意図が十分伝わっていることが分かった。

第1弾のアンケートの結果等を考慮・検討し、本格的に配布事業を行うことを決定した。利用の傾向の把握や課題等を洗い出すため、引き続き社会実験と位置づけ利用者にアンケートを行うこととした。

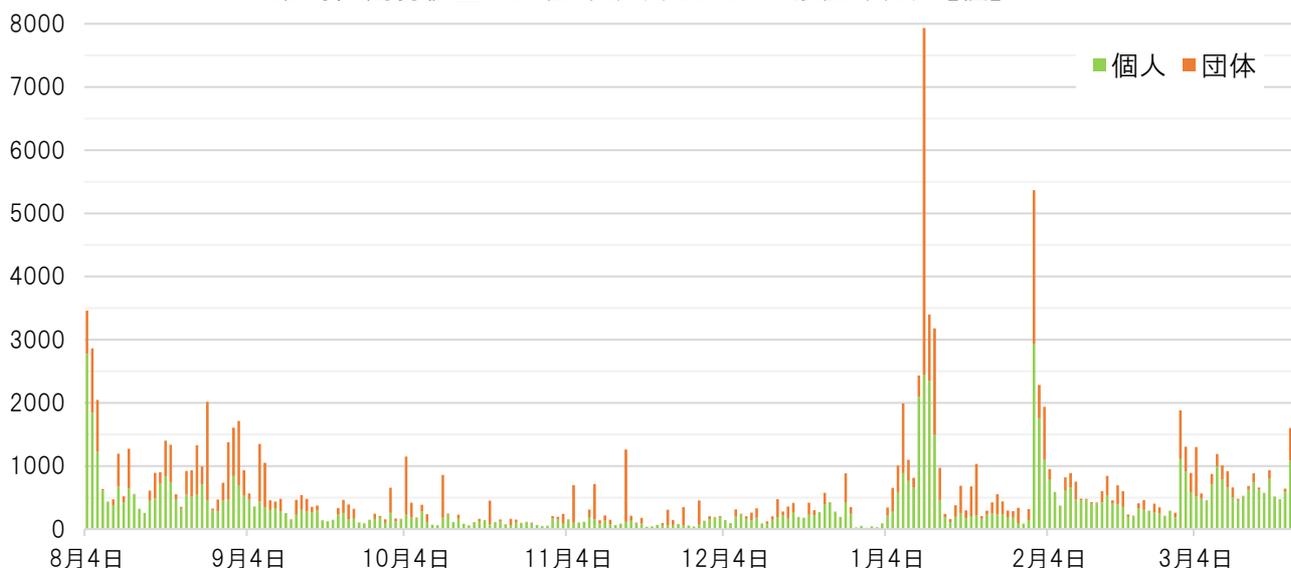
第1弾では「医療用」検査キットを配布したが、第2弾では、感度・性能を飯田保健所や医療機関で検定いただいた上で、より安価でかつ配布しやすい「研究用」検査キットを活用することとした。

第2弾からは近隣の町村でも同様な事業を行うよう呼び掛けをし、下伊那圏域内9町村で趣旨をご理解いただき、圏域内へウイルスを持ち込まない水際対策として実施いただいた。

令和4年1月にはオミクロン株の出現により当圏域内でも感染者数が急増した。無症状陽性者の早急な捕捉や市民の不安払拭のため、1月11日～14日には市役所窓口での緊急直接配布を行った。

また、高齢者施設や福祉施設、保育園、医療機関などで集団感染が確認された場合に、業務継続のため職員等が検査できるよう、施設に対し必要な数量を提供した。

第2弾 簡易検査キット配布数(市民向け一般配布分)【個】



◇ 第3弾 (令和4年3月30日～令和5年1月9日)

第2弾の実施期間中から市民からの事業継続の要望が多く、令和4年度も第3弾として事業を継続することを決定した。感染拡大の状況から事業開始を前倒し3月30日から実施した。

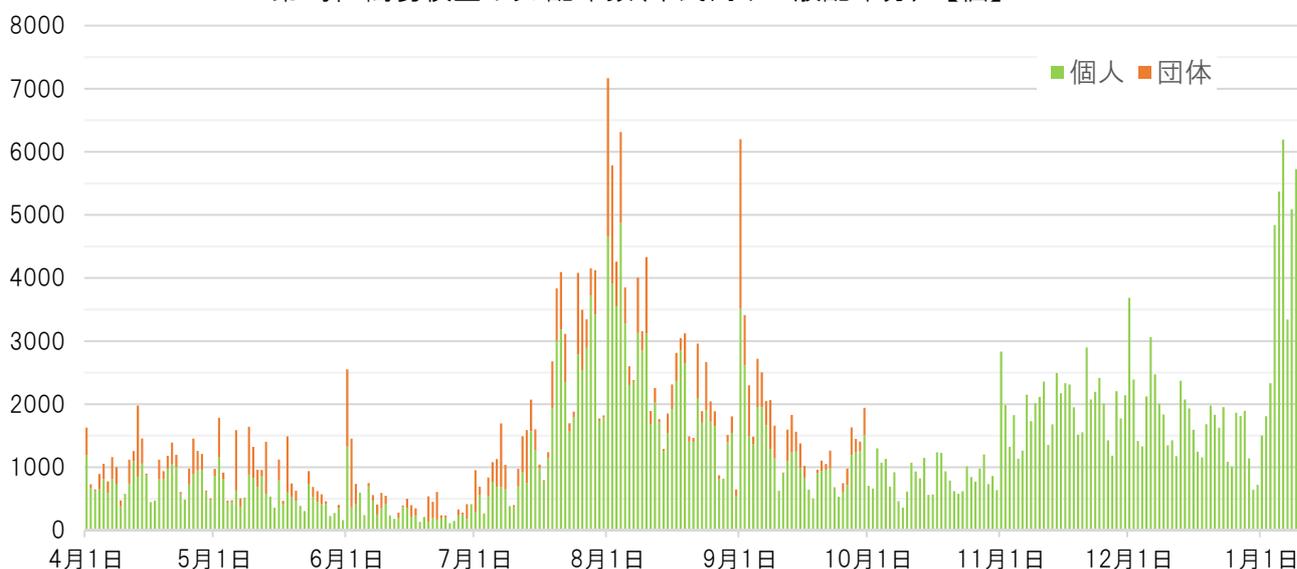
第3弾では市中でもオミクロン株がまん延しており、当初の目的であった水際対策よりも、陰性を確認して出勤し施設等の業務を継続することや陽性者と接触があった場合の確認等により、感染の早期発見や市民に安心を与える意味合いが強くなった。

第3弾は当初9月30日までを実施期限としていたが、市民からの要望もあり1月9日まで延長した。なお、10月1日以降は個人からの申込のみ配布することとした。

検査キットを用い自ら感染対策を行うことへの市民意識が根付いてきたこと、医療用検査キットが流通を始め市内の薬局等で容易に購入できるようになったこと等に鑑み、1月9日の申し込み分をもって一般配布事業を終了した。

なお、高齢者施設や医療機関で集団感染が起きた場合で、施設側で簡易検査キットの至急の調達ができない場合には、一定量のキットの提供を行ってきた。これは、症状のない職員等が毎日検査をすることにより、その施設の業務継続に役立てていただいたもので、今後も継続して行っていく。

第3弾 簡易検査キット配布数(市民向け一般配布分)【個】



事業効果の考察

感染症対策として高い有効性があり、海外各国ではすでに取り入れられていた簡易検査キットの利用による頻回な自発的検査から自発的自己隔離へつなげる意識づけを、地域社会に根付かせることができ、全国的な先進事例となった。

個人で検査することが定着

- 第1弾のアンケート集計の結果、検査の難しさの項目では74.8%が「簡単」「普通」と回答、検査結果での判定不能は0.8%であったことから、検体採取、検査自体は個人でも問題なく行えると判断するに至った。第2弾では「簡単」「普通」が90.5%、第3弾では97.0%と回数を重ねるたびに検査自体に慣れ、十分個人で検査できていることが分かる。
- 個人で検査ができることにより、無症状期を含めた迅速な「自己検査と自己隔離」を行うことで、「周囲に感染を拡大させない」という意識や行動を市民に定着させる効果があった。
- デルタ株流行の時期には、全国的に新規陽性者の少ない長野県の中でも当圏域は人口当たりの感染者数が少なかったことから、感染症の基本である「検査と隔離」が機能し、クラスター発生等を極力防ぐことができていたと考えられる。

水際対策として積極的な活用が図れた

- 当初の目的であった、圏域内にウイルスを持ち込まない水際対策としての活用は、無症状のうちに周囲に感染させることを未然に防ぐことを目的としており、自身の他地域との往来のみでなく、都会からの帰省、冠婚葬祭での遠方の親戚等を含む集まりなどの場面での確に活用される事例が多くみられた。アンケートや申し込み時の申請理由でも大半を占め、第1弾では65.4%、第2弾では47.0%、第3弾では43.4%に及んでいる。これは特に感染拡大地域への訪問や滞在等リスクのあった場面を捉えて頻回に検査するといった方法が、感染拡大防止として有効であることを市民の方に浸透させることに繋がった。

簡易検査キットの入手が困難であった時期でも比較的安定した量の簡易検査キットを配布し、市民の安心と感染防止、施設等での業務継続、社会経済活動の実施に繋げることができた。

市民の安心に繋がった

- 市民の安心に繋げるという意味では、第2弾～第3弾にかけて顕著に傾向が表れている。感染拡大の波に合わせて申込数が増減していることや、アンケートや申請理由で「陽性者と接触があった」「感染状況が不安」を併せて第1弾では0.2%、第2弾では29.3%、第3弾では44.0%と増加していることから、当圏域内でのオミクロン株のまん延など感染拡大で市民の不安が増大している状況が見取れる。アンケートの自由記載欄では「安心」というキーワードが数多くみられ、検査をすることで一定程度安心に繋げることができたと捉えている。
- 簡易検査キットの社会的なニーズの高まりを受け、全国的に簡易検査キットが入手しにくい時期でも、早期から販売会社と関係を築けていたことにより、比較的安定した供給を行え、市民への安心に繋げることが出来た。

感染拡大防止に一定の効果あり

- 第2弾で148名、第3弾で247名の方から検査結果が陽性であったとの回答をいただいているが、アンケートの回答率からみてもこの数字以上に陽性者を捉えていると考えられる。感染拡大の抑制という側面では、もし陽性となった方々が検査キットを使用せず無症状、あるいは陽性確定の前に周囲の何人かに感染させていたかもしれないことを考えると、感染拡大防止にも一定の効果があったと考えられる。アンケートの自由記載欄でも「キットのおかげで職場に感染を広げずに済んだ」という回答をいただいている。

- 「検査キットを無料でいただくことにより、こまめな手洗い、換気、密を避けるなどの他の感染対策への意識が高まった」とのご意見もいただいております、間接的に感染対策の強化に繋げる効果もあったものと考えられる。

社会活動・経済活動の継続が図れた

- 「行動制限ではなく検査をしながら経済を再開」するためには安価な検査が必要で、第2弾からはイベントや会食への参加の際の事前検査にも一定の割合で利用されており、市民の社会経済活動への参加の不安払拭に役立てることができた。マスクを外して会話する場面等のリスクを事前に下げておく、という意識づけに繋がっている。
- 検査キットが容易に入手できるため、自己検査により陽性となり医療機関を受診する方がいた一方で、陰性であったため医療機関を受診することなく、医療機関の負担軽減に繋げた功績があったと思われる。

課題

- 検体が適切に採取されず、実際には陽性の方が陰性と思い込み、クラスターを発生させてしまった例が、少なからず見られている。逆に保管方法が原因と思われる検査キットの不備により、薄い陽性反応が出たものの実際は陰性であった例が、特に夏場に見受けられた。適切な検体採取の手技の指導やアナウンスは継続して行うべきである。
- 抗原定性検査簡易検査キットには、「医療用」「一般用」と「研究用」があり、国は「医療用」に使用を推奨している。第1弾では医療用の検査キットを配布したが、社会実験・実証実験としての意味合いが強かったため実施できたことであり、第2弾からは研究用を配布することとした。事前に配布するキットの性能については検証をいただいていたが、研究用であることで一部の方にご理解を得られなかった部分もあり、課題として認識している。
- 当初、他地域との往来など必要が生じた際に申し込んでいただき、すぐに使用されるものと目論んでおり、アンケートの返送により送付したキットの利用状況を確認していた。しかしながら特に圏域内でウイルスのまん延が確認されてからは、必要性が生じたときにすぐに使用できるよう一定数を備えとして確保している方もおられると推測する。国や県も、発熱などの症状が出た場合のために事前に検査キットを準備するよう呼び掛けており、許容できる事象ではあるが、その場合配布方法（1か月に1人4個等）を考え直す必要がある。
- ウイルスがまん延し、水際対策として成り立たなくなった際には、海外の多くの国がそうしたように有料で配布することも検討する必要がある。